

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2020 年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2021 年 5 月 10 日 提出

1. 研究課題名	
18 世紀の上方・江戸における出版と都市文化の関連性 (英文表記: The Relationship Between Publication and Urban Culture on Kamigata and Edo in 18 Century)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
石上 阿希	国際日本文化研究センター・特任助教
3. 研究分担者 (合計: 9 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
鈴木桂子(すずきけいこ)	衣笠総合研究機構・教授
加茂瑞穂(かもみずほ)	武庫川女子大学
金子貴昭(かねこたかあき)	衣笠総合研究機構・准教授
倉橋正恵(くらはしまさえ)	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
山本真紗子(やまもとまさこ)	立命館大学文学部・授業担当講師
竹村さわ子(たけむらさわこ)	
高須奈都子(たかすなつこ)	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
ローレンス・マルソー	立命館大学アート・リサーチセンター・客員協力研究員
ミシェル・キューン	安田女子大学・助教

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点に分かるように明記してください)
<p>本研究では、江戸中期に京都を拠点として活躍した浮世絵師である西川祐信(1671~1750)に着目し、18 世紀上方出版文化から江戸の都市文化へと続く知の連環を考察する。</p> <p>祐信は、上方だけではなく、江戸の絵師にも大きな影響を与えた絵師であり、多様な出版文化の展開を担った重要な人物であるにも関わらず、これまで十分な研究がされてきたとは言い難い。本研究は、祐信という絵師を核とした知的活動の展開と上方文化の江戸流入を明らかにすることを目的とする。</p> <p>研究活動の一つとして、毎月 1 回 アート・リサーチセンターにて西川祐信の着物雛形本『正徳雛形』の研究会を開催。染織、文学、美術など様々な研究者をメンバーとして『正徳雛形』に記載された各雛形を分析し、模様の典拠となった文学、演劇との関連性を考察する。</p>

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

12月22日に「西川祐信雛形本研究会」を開催した(発表者:山田奨治『『正徳ひな形』のデータ分析』)。また、研究書出版に向けた編集会議を3回開催し、各メンバーが翻刻・注釈・論文執筆を進めた。

研究代表者の石上とメンバーの加茂は『文化・情報の結節点としての図像:絵とことばでひろがる近世・近代の文化圏』において、訓蒙図彙の諸本や訓蒙図彙と雛形本との関連についての論文を発表した。

研究代表者の石上は単著『江戸のことば絵事典:『訓蒙図彙』の世界』を出版し、第四章において「訓蒙図彙もの」としての雛形本について考察した。

2021年度は、8月にオンライン開催されるEAJSにて雛形本をテーマとしてパネル発表を行う(石上・加茂・キューン)。また、研究書の出版も行う。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

・『江戸のことば絵事典:『訓蒙図彙』の世界 *Edo no kotoba e jiten: Kinmō-zui no sekai (The Edo-period dictionary of words and pictures: The world of Kinmō zui)*』、単著、2021年3月、KADOKAWA、全ページ

・『文化・情報の結節点としての図像:絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏 *Bunka jōhō no kessetsu-ten to shite no zuzō: E to kotoba de hirogaru kinsei kindai no bunka-ken (Visual Images as the Intersection of Culture and Information: The Culture Spheres of Early Modern and Modern Japan in Pictures and Words)*』、共著(編著)、2021年3月、晃洋書房、石上、阿希、山田、奨治、勝又、基、楊、世瑾、加茂、瑞穂、鈴木、俊幸、木場、貴俊、李、杰玲、Screech、Timon、定村、来人、Harb、Hassan Kamal、山崎、佳代子、前川、志織、pp.13-25

(2) 論文

・石上阿希『『訓蒙図彙』諸版再考』、単著、2021年3月、『文化・情報の結節点としての図像:絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』、pp.13-25、有

・加茂瑞穂「図と言葉による意匠—『武具訓蒙図彙』と『女用訓蒙図彙』」、単著、2021年3月、『文化・情報の結節点としての図像:絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏』、pp.35-44、有

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・西川祐信『正徳雛形』研究会、第回(2020.12.22)、オンライン開催

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

・「17~18世紀の京都における「知」の大衆化—絵入百科事典を中心として—」、基盤(C)、2018年4月—2022年3月、代表

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他